

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 9 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671300154
法人名	有限会社 介護サービス羽ノ浦看護婦家政婦紹介所
事業所名	グループホームあすか
所在地	徳島県阿南市羽ノ浦町宮倉原ノ内40番地 (電話) 0884-44-6300

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 1 月 28 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 10 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤:8人、非常勤:3人、常勤換算:8.83人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階 部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		1,000 円	

## (4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 10 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.9 歳	最低 77 歳	最高	96 歳	

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	江藤内科、むらかみ内科循環器科クリニック、八幡歯科医院
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

“ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに”を理念に掲げ、職員は利用者の気持ちに向き合い、思いや希望を受け止め、寄り添いながら“生きる支援”をしていくことを目標として日々取り組んでいる。生活道路に面した事業所は、自治会や防災連絡会など地域の一員として活動に参加している。利用者は往来する子どもや住民と常に接することができ、朝夕や散歩時の挨拶、子どもやお年寄りの来訪などを通して日常的な交流が行われている。事業所の夏祭りには地域の大勢の人達が来てくれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回評価での主な改善課題はありません。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	評価の意義やケアの再確認と反省点などを話し合いながら、全職員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者、家族、地域住民、地域包括支援センター職員が参加している。事業所の運営状況報告や行事協力依頼、地域行事等の情報や意見の交換が行われ、それぞれ改善や取り組みをしてサービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	家族の意見や要望等は、重要事項説明書で相談窓口を説明したり、意見箱の設置や来訪時の言葉かけなどで把握し、サービス改善に反映する努力をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	地域の自治会に加入したり防災連絡会に参加するとともに、「あすか便り」の発行、事業所での茶話会や夏祭りへ近隣住民を招待するなどしている。また保育園児や小学生の来訪があるなど積極的な交流を行い、連携を図っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の実践に向けてケアへの姿勢の週間目標を立て、理念とあわせて毎朝唱和し、共有しながらサービスの向上へ反映できるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入したり防災連絡会に参加するとともに「あすか便り」の発行、事業所での茶話会や夏祭りへ近隣住民を招待するなどしている。また保育園児や小学生の来訪など積極的な交流を行い、連携を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義やケアの再確認と反省点などを話し合いながら、全職員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者、家族、地域住民、地域包括支援センター職員が参加している。事業所の運営状況報告や行事協力依頼、地域行事等の情報や意見の交換が行われ、それぞれ改善や取り組みをしてサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口を訪問して実績報告書の提出や運営上の相談をするなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や毎月の「あすか便り」の発行によって利用者の暮らしぶりや職員の退職などを伝えている。また食堂に行事などの写真を掲示し、きめ細やかに説明している。金銭管理についても毎月報告し、家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望等は、重要事項説明書で相談窓口を説明したり、意見箱の設置や来訪時の言葉かけなどで把握し、サービス改善に反映する努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独事業所であるため職員の異動はない。退職による職員交代時には引継ぎを充分に行い、スムーズに移行できるよう配慮して利用者への影響を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の受講はホームの運営やサービスの質の向上に不可欠であることを理解し、情報収集や職員への周知に努め、習熟度に応じて参加できるよう配慮している。研修内容は全職員が共有できるよう報告の機会を設け、サービスの質の向上に繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部の学習会や相互評価事業等に積極的に参加したり、独自で相互交流を行うなどし、同業者の取り組みを参考にしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族などと相談し、できるだけ利用開始までの間にゆとりを持って見学や遊びに来てもらうなどしている。入居までにゆとりがない場合には個別対応の時間を多く設け、徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「おばあちゃんの家」に遊びに来ている家族の一員という感覚で過ごすように心がけ、人生の先輩としての価値観や経験、互いの体調への気づかいなど、支えあいながら喜怒哀楽を共にする関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や態度、表情等から思いを察するように心がけ、家族からも情報を得て意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の来訪時に要望等を聞き、全職員で気付きや意見を出し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直しを行うと共に、利用者の状態変化にそった検討が行われ新たな計画を作成し、家族の同意が得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かした通院、本人や家族の状況に応じた必要な送迎のほか、近隣高齢者の相談等にも応じるなど柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の話を充分聞いて、本人のかかりつけ医の継続した治療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けた指針を作成し、本人、家族の意思を尊重して対応することを関係者と折にふれ話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけ等に気をつけている。特にトイレ誘導時にさりげない対応を心がけている。利用者の秘密保持については、職員採用時の説明並びに契約書等への明文化により、適正な個人情報の取り扱いを徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の様子を見ながら、趣味の時間や家事への参加など一人ひとりの望みやペースに合わせた生活リズムのもとで暮らせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は相談しながらメニューを決めたり、野菜の収穫や買い物、調理などを利用者主体で進め、上手くできた成果などを話し合いながら楽しく食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて毎日入浴できるようにしている。本人の生活習慣に合わせた時間帯(夜間等)で入れるように工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者からの希望がなくても潜在する意向を引き出せるよう働きかけ、生け花、調理、洗濯物たたみ等、趣味や家事など、一人ひとりの生活歴や力にあった場面づくりを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や希望に合わせて散歩やドライブ、買い物、外食などに出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は日中、鍵をかけていない。職員は利用者の外出傾向を把握しており、見守りや居場所の確認などの連携が図られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	市消防署の指導を得るなどして、避難・防災訓練などを年3回実施している。取り組み状況を運営推進会議に報告したり、地域の防災連絡会に参加して協力を得られるよう働きかけている。玄関先には職員、利用者手作りの防空頭巾が掛けられ、備えとともに意識の高揚を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分摂取量を記録し、個別に工夫しながら確保できるよう支援がされている。栄養バランスについては管理栄養士から献立表のチェックやアドバイスを得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先や中庭にベンチやえんどう豆の吊り棚、花や野菜のプランター、めだかの水槽などが置かれている。屋内には利用者が活けた満開の花が飾られている。利用者は窓越しに入る日差しを受けて職員と手作業しながら団らんしている。対面する調理場からは食事を準備する音が聞こえ、家庭的で季節感もあり居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの品物を持ち込む利点を家族に理解してもらい協力を得ている。一人ひとりの居室入口には利用者が選んだ暖簾が掛けられ、室内は家具や写真、小物など好みのもので飾られ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		